



## 自立へ向けた「三つの自己」

# 自己理解・自己選択・自己決定

本校の教育目標である「自立と社会参加」「一人一人に合った就労の実現」を達成するために大切にしていることは、「自己理解・自己選択・自己決定」からなる「3つの自己」です。

### 自己理解

自身の特性(得意・不得意)や適性を客観的に把握すること。

### 自己選択

理解に基づき、自らに合った学び方や役割を自分で選ぶこと。

### 自己決定

選んだ選択肢に対し、やり切る決意をもつこと。

「する力」を養うことこそが、社会参加における力となります。

### トライ&エラーが保証する「自己選択」

学校は、生徒にとって「安心と挑戦の場」でなければなりません。失敗を「大きな学び」へと転換できる心理的安全性を実感できて初めて、生徒は自ら選ぶ勇気を持ちます。

日常の授業の学びの中で、生徒が自らの特性に基づいて役割を選択していきます。生徒が自ら「どう学ぶか、どの役割を担うか」を考えて、選び、決める場面が学校にはたくさんあります。

教師の役割は、知識の伝達者から、生徒の主体的な選択を導き出す「伴走者」へなります。自ら選ぶというプロセスが、学習を「自分事」へと昇華させ、最終的な自己決定に対する当事者意識と責任感を育みます。

### 自らの人生に主導権を持つ「自己決定」の確立

自立の本質は、「自分の人生の主人公は自分である」という実感にあります。

「自己決定」は、特別なことではなく、日常の基本的な生活の中にこそ宿ります。例えば・・・

「自分から挨拶をする。」

「道具を元の場所へ美しく片付ける。」

「時間厳守、身だしなみを整える。」

日々の生活において、自分で決めたことをコツコツとやり切る力こそが、就労における最大の強みとなるのです。

「自分で決めたことを当たり前毎日やり遂げる」という決意と実際に実行する積み重ねが、社会における「あなたに仕事を任せたい」「一緒に働きたい」という巨大な『信頼』となります。

なんでもいいです。毎日、コツコツと必ずやり切ることを決めましょう。そして、やっていきましょう。

### 個別最適な進路実現へ

3つの自己の集大成は、生徒一人一人に最適な就労の実現です。日々の生活においても、ルールを一方向的に押し付けるのではなく、事実に基づき生徒自身がどう振る舞うべきかを考え、決定することが大切です。自らの意志で決定し、存在価値を高めていく。この「自己実現」のプロセスこそが、本校が目指す進路指導の到達点です。

## 未来を切り拓く「3つの自己」



北九州中央高等学園の進路指導は、単に就職先を確保する「行先指導」から、生涯にわたって働き、生きる基盤を作る「生き方指導」を大切にします。

これら3つの要素【自己理解・自己選択・自己決定】が循環することで、生徒の中に、環境の変化に適応し自らをアップデートし続ける「働き続ける力」が作られるのです。

### 「自己理解」を深める

自己理解を深めるには、日々の活動を振り返り、自らの状態を「言語化」する習慣が欠かせません。1,2年生は、ロジスティクス、フード、オフィス、ビルクリーニングの4つの専門教科を軸に、3年生は農耕、清掃、事務・軽作業、パン・接遇の4つの作業班を軸に学習を進めます。

学習の振り返りから、生徒は「ロジスティクスの正確なピッキングは得意だが、接客でお客様への受け答えは苦手だ」といった具体的な自己分析が可能になります。このことは、単なる弱点の把握に留まりません。自分の特性を理解した上で「合理的配慮」を周囲に要求するスキルや、困難な状況で適切に「相談